

巻頭言

大阪商業大学商業史博物館が正式に博物館相当施設として認可され、従来にも増して地域社会に根をおろしつつ、大学の博物館らしい学術研究活動を行うことになったことを、心から嬉しく、かつ誇りに思う。

去る四月から私が商業史博物館館長を任せられたのは、博物館と事実上一体となって運営されている比較地域研究所の所長を勤める私が館長を兼務することが、運営上好都合であろうという判断によるものであったと考えているが、折角与えられた機会であるので、活動内容においても研究所の活動と緊密に連携を持った博物館をつくりあげていくのが、私の課題であろう。

私が描く博物館の夢は、「活動し、研究する博物館」である。博物館である以上、展示物の充実と参観者に有益な展示方法を考えて行くことが第一次的課題であるが、それだけにとどまらず、広く地域学研究の一翼を担える「研究する」博物館を目指したい。その目標に向っての第一歩が、この商業史博物館紀要の刊行である。

さいわいに、博物館の事務スタッフには大阪地域の近世史に造詣の深い人材や、学術書刊行の専門知識を持つベテラン編集者が揃っている。比較地域研究所の연구원としても、大阪周辺に限らず、ヨーロッパからアジアの広大な地域を研究対象とする多国籍メンバーを擁している。このメリットを生かして博物館としての研究も充実させ、キラリとひかるような論文の並ぶ紀要を刊行していきたい。

足りないところ、間違ったところについては御叱正を賜るとともに、この紀要がすすくと育っていくことを見守っていただき、様々な形での御協力を御願いたい。

二〇〇〇年二月